UR44

USB AUDIO INTERFACE

Operation Manual

Benutzerhandbuch

Fonctions Détaillées

Manual de Operaciones

Manuale Operativo

使用说明书

オペレーションマニュアル



EN
DE
FR
ES
IT
ZH
JA



目次

開発者メッセージ

このたびはUSBオーディオインターフェースUR44をお買い上げいただきありがとうございます。

UR44は、先行して開発したUR22の兄弟にあたるモデルです。音楽制作に必要な機能を堅牢なボディに凝縮している点、上位モデルと同様の高音質設計を行なった点についてはUR22の考え方を継承しつつ、そこにさらに拡張性を持たせたモデルがUR44です。

このモデルでは、マイクプリアンプを4つ備え、最大6チャンネルでの同時録音にも対応します。音質を支えるマイクプリアンプ「D-PRE」は、部品選定や回路設計から徹底的にこだわり、伸びやかな高域、密度の濃い中域、パンチのある太い低域をバランス良く実現したキャラクターを持っており、ヤマハ音楽制作用ミキサー n12/n8から始まって、スタインバーグのオーディオインターフェースMR816シリーズ、UR28M、UR824と受け継がれてきました。音楽制作の現場で、多くのミュージシャンやエンジニアから信頼を得てきたこの「D-PRE」は、UR44でもその力を十二分に発揮してくれると信じています。

しかし、マイクプリアンプだけ良い、というのでは真の音楽制作機器として成り立ちません。モニタースピーカーへ出力される音にも同様に繊細な心遣いが必要だと考えています。そういった意味で私たち開発チームがとても大切にしていること、それは、「音の奥行きが見えること」です。左右の広がり、遠くの音、近くの音、大きい音、小さい音、そういった細かいニュアンスをできる限り感じられるような音作りを目指しています。この考え方は、UR22と同様ですが、モデル全体でさらにチューニングをして、磨きをかけています。また、録音時に音の遅れのないモニター環境を実現する「True Integrated Monitoring」や、リバーブエフェクト「REV-X」は、上位モデルと同じく快適な録音環境を実現します。

拡張性という点では、Apple社のiPadでも活用していただくために、iOSに対応した「CCモード」(Class Compliantモード)を搭載しました。Steinberg Cubasisなどのようなios対応音楽制作アプリケーションと組み合わせて、高音質なレコーディングをいつでもどこでも、シンプルなセッティングで実現できます。さらに、動画配信などに便利なループバック機能を搭載し、昨今のインターネット環境でも活用できるように仕上げています。

高音質なレコーディングが、今や誰でも手軽に楽しめるものになりました。このモデルを通じて、初めて音楽制作に携わる方からプロフェッショナルなシーンで活躍されている方まで、皆様のすてきな音楽生活に少しでも貢献ができたら、とても嬉しく思います。

スタインバーグハードウェア
開発チーム一同

付属ディスク(TOOLS for UR44)について

TOOLS for UR44 CD-ROMには、以下の内容が収録されています。

● オペレーションマニュアル

• UR44オペレーションマニュアル(本書)

• Basic FX Suiteオペレーションマニュアル

● TOOLS for UR44

本体をコンピューターにつなげて使うために必要なソフトウェアです。製品のご使用の前に、TOOLS for UR44のインストールを完了してください。次の３つのソフトウェアをインストールできます。

• Yamaha Steinberg USB Driver

本体とコンピューターの間でデータをやりとりするためのソフトウェアです。

• Steinberg UR44 Applications

コンピューターから本体の設定を変更したり、Cubaseシリーズとの連携機能を使ったりするためのソフトウェアです。次の2つのソフトウェアで構成されています。

- dspMixFx UR44

Cubaseシリーズ以外のDAW (Digital Audio Workstation)ソフトウェアで本体を使うときに、本体のさまざまな設定を操作するソフトウェアです。

- UR44 Extension

本体との連携機能に対応したCubaseシリーズと組み合わせて使うためのソフトウェアです。本体との連携機能に対応したCubaseシリーズのバージョンは、以下のSteinbergウェブサイトをご参照ください。
http://www.japan.steinberg.net/

• Basic FX Suite

Basic FX Suiteは、ヤマハが長年培ってきたモデリング技術を応用して開発されたVST3プラグインソフトウェア群です。Basic FX Suiteをインストールすると、次の3つのソフトウェアがインストールされます。

- Sweet Spot Morphing Channel Strip

コンプレッサーとイコライザーを組み合わせたエフェクトです。

- REV-X

ヤマハがプロオーディオ機器用に開発したデジタルリバーブエフェクトです。

- Guitar Amp Classics

ヤマハがモデリング技術を駆使して開発したギターアンプエフェクトです。

NOTE

- TOOLS for UR44は、iPad非対応のソフトウェアです。
- Basic FX Suiteの詳しい使いかたは、TOOLS for UR44 CD-ROM内にあるBasic FX Suiteオペレーションマニュアルをお読みください。

Cubase AIのダウンロードについて

本製品をお買い上げの方にCubase AIを無料で提供しています。ダウンロードには、Steinbergウェブサイト内のMy Steinberg でアカウント作成が必要です。詳細は、以下のSteinbergウェブサイトをご参照ください。

http://japan.steinberg.net/getcubaseai/

取扱説明書の読みかた

製品のご使用の前に、下記の取扱説明書をお読みください。

• はじめにお読みください(紙)
製品に同梱されています。製品を安全にお使いいただくために、はじめに必ずお読みください。

• セットアップガイド(冊子)
製品に同梱されています。製品を使う前の準備をするためにお読みください。このセットアップガイドの内容にそって準備が完了したら、オペレーションマニュアルをお読みください。

• オペレーションマニュアル(PDF)
TOOLS for UR44 CD-ROMに収録されています。製品の機能や使いかたを調べるためにお読みください。

表記

WindowsとMac
手順と説明で、WindowsとMacで操作が違ったり、どちらかのOSだけで使える機能のときは、それを記しています。OSの記述がないときは、両OSで共通です。

手順
手順の一部は、「→」を使って簡潔に記しています。たとえば、[デバイス] → [デバイス設定] → [コントロールパネル]と記しているときは、次のように操作します。

1. **[デバイス]メニューをクリックします。**
2. **[デバイス設定]オプションを選びます。**
3. **[コントロールパネル]ボタンをクリックします。**

キーボードショートカット
キーボードショートカットは、[Windowsのキー]/[Macのキー]+[キー]と記しています。たとえば、[Ctrl]/[command]+[Z]は、Windowsでは[Ctrl]キーを押したまま、Macでは[command] キーを押したまま、[Z]キーを押します。

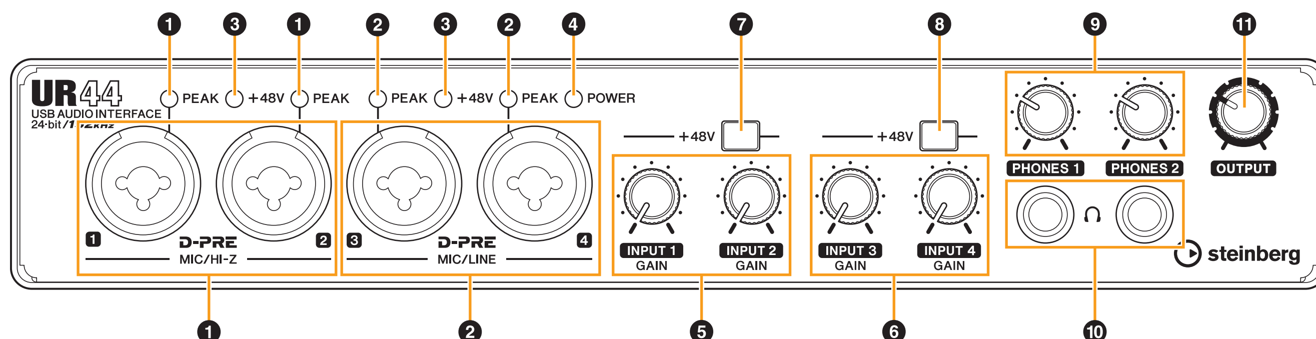
Cubaseシリーズとは
この取扱説明書に出てくる「Cubaseシリーズ」とは、Cubaseのすべてのグレードを指します(Cubase LEは除く)。特定のグレードを指すときは、そのグレードを記します。たとえば、Cubaseシリーズの最上位グレード「Cubase」だけを指すときは、「Cubaseのみ」と記しています。

画像(スクリーンショット)
説明のための画像は、Windows版を使っています。ただし、Mac版だけの機能を説明するための画像は、Mac版を使っています。また、Cubaseの画像はCubase 7を使用しています。他のバージョンのCubaseをご使用の場合、画像が異なることがあります。詳細は、Cubaseの[ヘルプ]メニューから開く取扱説明書(PDF)をご参照ください。

バージョン情報
x.x.xとx.xxはバージョンを示します。

本体について

フロントパネル



❶ [MIC/HI-Z 1/2]端子/[PEAK]インジケーター

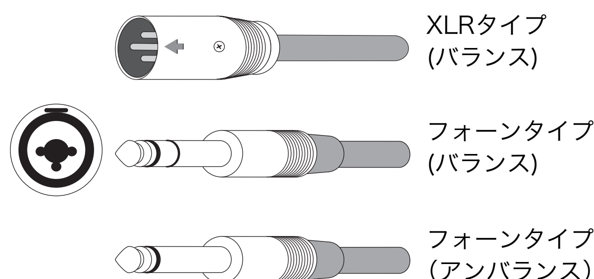
マイク、電子楽器、エレキギター、エレキベースなどをつなぎます。この端子は、XLR タイプとフォーンタイプ(アンバランスのみ)のプラグ *1をつなぎます。XLRタイプはMIC専用で、フォーンタイプはHI-Z専用です。[PEAK]インジケーターは、-3 dB以上で赤く点灯します。

❷ [MIC/LINE 3/4]端子/[PEAK]インジケーター

マイク、電子楽器などをつなぎます。この端子は、XLR タイプとフォーンタイプ(バランス/アンバランス)のプラグ *1をつなぎます。XLRタイプはMIC専用で、フォーンタイプはLINE専用です。

[PEAK]インジケーターは、-3 dB以上で赤く点灯します。

*1 プラグの種類



HINT

最適な録音レベルにするために

入力信号レベルに応じて[PEAK]インジケーターが点灯します。最適な録音レベルにするために、[INPUT GAIN]ノブで[PEAK]インジケーターが赤く点灯するまで入力信号レベルをあげます。そのあと、一番大きな音のときに一瞬点灯するレベルになるまでゆっくりとさげます。

HINT

HI-ZとLINEの使い分け例

HI-Z:

パッシブ(電池を使用しない)タイプのピックアップを搭載したギターやベース

LINE:

- エフェクターやプリアンプ、ダイレクトボックス
- アクティブ(電池を使用する)タイプのピックアップを搭載したギターやベース
- シンセサイザーなどの電子楽器

❸ [+48V]インジケーター

[+48V]スイッチ(ファンタム電源)がオンのときに点灯します。

❹ [POWER]インジケーター

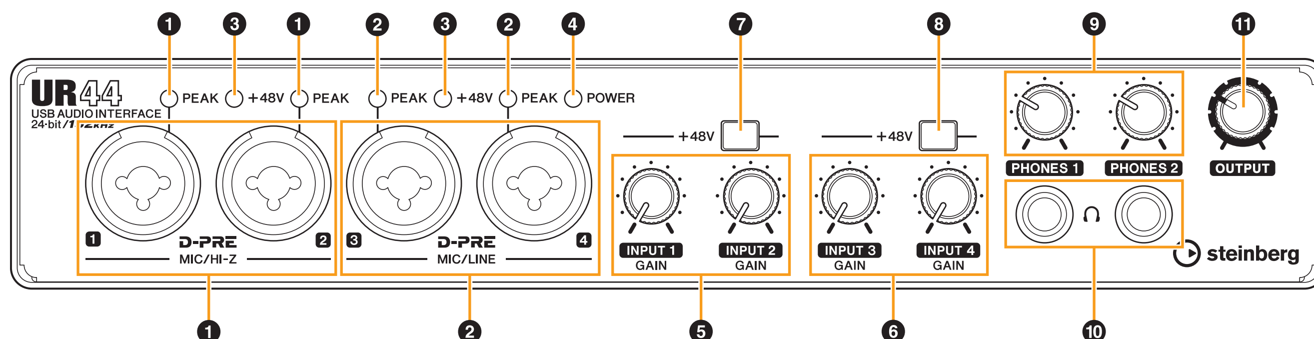
電源がオンのときに点灯します。コンピューターやiPadと接続ができていないときは点滅します。

❺ [INPUT 1/2 GAIN]ノブ

[MIC/HI-Z 1/2]端子の入力信号レベルを調節します。

❻ [INPUT 3/4 GAIN]ノブ

[MIC/LINE 3/4]端子の入力信号レベルを調節します。



❼ [+48V]スイッチ

ファンタム電源(+48V)をオン(▃)/オフ(▇)します。このスイッチをオンにすると、[MIC/HI-Z 1/2]端子にファンタム電源を供給します。コンデンサーマイクを使用するときは、このスイッチをオンにしてください。

❽ [+48V]スイッチ

ファンタム電源(+48V)をオン(▃)/オフ(▇)します。このスイッチをオンにすると、[MIC/LINE 3/4]端子にファンタム電源を供給します。コンデンサーマイクを使用するときは、このスイッチをオンにしてください。

ファンタム電源ご使用時の注意

⚠ **注意**

ファンタム電源が不要な場合、スイッチをオフにしてください。
ファンタム電源をオンにする場合、本体/外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。

- **[MIC/HI-Z 1/2]端子および[MIC/LINE 3/4]端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ファンタム電源のスイッチをオフにする。**
- **ファンタム電源のスイッチをオンにしたまま、[MIC/HI-Z 1/2]端子および[MIC/LINE 3/4]端子にケーブルの抜き差しをしない。**
- **ファンタム電源のオン/オフは、[PHONES 1/2]ノブおよび[OUTPUT]ノブを最小にした状態で行なう。**

❾ [PHONES 1/2]ノブ

ヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。[PHONES 1]ノブはすぐ下の[PHONES 1]端子、[PHONES 2]ノブはすぐ下の[PHONES 2]端子の出力信号レベルを調節します。この信号のレベルは、[OUTPUT]ノブの影響を受けません。

❿ [PHONES 1/2 🎧]端子

ヘッドフォンを接続します。[PHONES 1]端子からの出力信号は、MIX 1固定です。[PHONES 2]端子からの出力信号は、MIX 1またはMIX 2を選択できます。切り替えは、「Cubaseシリーズの専用画面」の「Headphones画面」(17ページ)または「dspMixFx UR44」の「ヘッドフォンエリア」(13ページ)で選択できます。

HINT

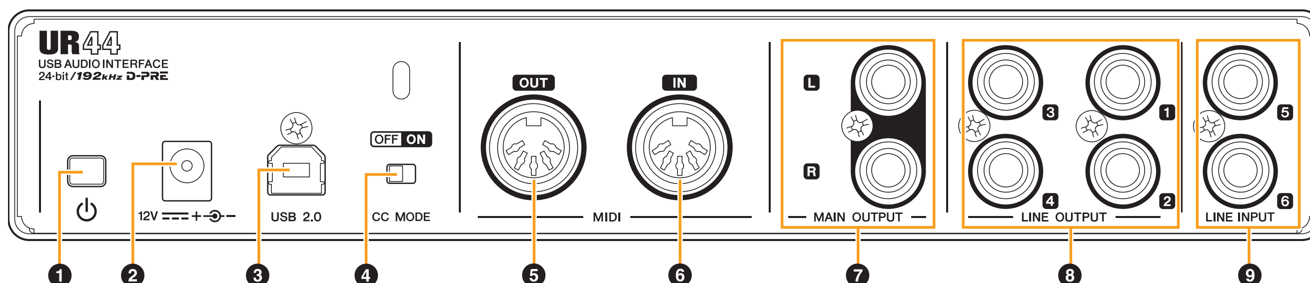
MIXとは

本体が内部に持つステレオの出力信号です。本体に入力する信号が、それぞれのMIXに流れます。「本体内部の信号の流れ」(33ページ)参照。

⓫ [OUTPUT]ノブ

[MAIN OUTPUT]端子の出力信号レベルを調節します。このノブは、PHONES端子の出力信号には影響を与えません。

リアパネル



❶ [⏻](スタンバイ/オン)スイッチ

本体の電源をオン(▂)/スタンバイ(■)します。

⚠注意

[⏻]スイッチがスタンバイの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは、必ず電源アダプターをコンセントから抜いてください。

注記

- **[⏻]スイッチのオン/スタンバイを連続してすばやく切り替えると、誤動作の原因になることがあります。**
- **[⏻]スイッチをスタンバイにしてから再度オンにする場合は、6秒以上の間隔を空けてください。**

NOTE

[⏻]スイッチをスタンバイにしたときに、シーン(11ページ)や[PHONES 2]出力信号などの設定が本体に保存されます。ただし、[⏻]スイッチがオンのまま電源ケーブルを抜くなどして電源をオフにした場合は、設定が保存されませんのでご注意ください。

❷ DC IN [12V]

電源アダプターをつなぎます。

❸ [USB 2.0]端子

コンピューターまたはiPadをつなぎます。iPadと本体の接続には、Apple社のApple iPad Camera Connection KitまたはLightning - USBカメラアダプタが別途必要となります。

USB端子ご使用時の注意

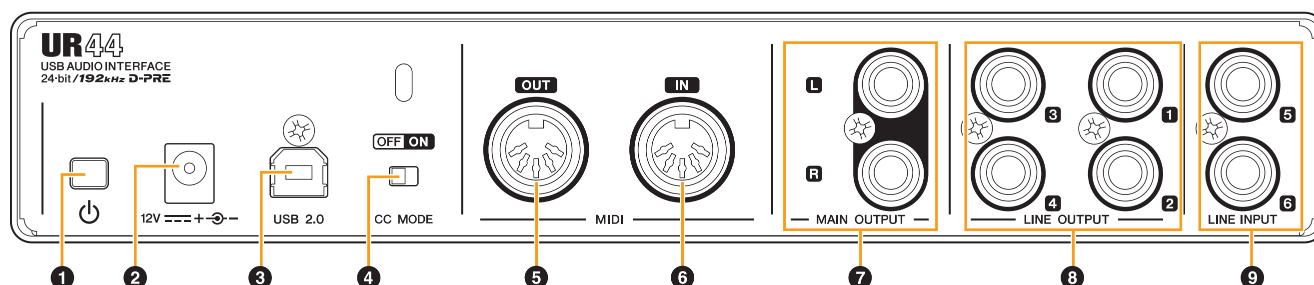
注記

[USB 2.0]端子でコンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。以下のことを行なわないと、コンピューターや本体が停止(ハングアップ)して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。コンピューターや本体が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動してください。

- **[USB 2.0]端子とコンピューターを接続する前に、コンピューターの省電力(サスペンド/スリープ/スタンバイ/休止)モードを解除してください。**
- **本体の電源をオンする前に、[USB 2.0]端子とコンピューターを接続してください。**
- **本体の電源のオン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、すべてのアプリケーションを終了してください。**
- **USBケーブルを[USB 2.0]端子から抜き差しする場合は、[OUTPUT]ノブなどの出力コントロールを最小にしておいてください。**
- **USBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行なってください。**

❹ [CC MODE]スイッチ

Class Compliantモードをオン/オフします。本体をiPadにつないで使う場合にオンにします。このとき、このスイッチをオンにしてから本体の電源をオンにしてください。本体の電源がオンのときにこのスイッチを切り替えても、動作は切り替わりません。



❺ [MIDI OUT]端子

MIDI機器のMIDI INにつなぎます。コンピューターから送信されたMIDI信号を出力します。

❻ [MIDI IN]端子

MIDI機器のMIDI OUTにつなぎます。MIDI信号をコンピューターに送信します。

iPad用アプリケーションでMIDI端子を使用する場合、MIDIポートとして[Steinberg UR44-1]を選択してください。[Steinberg UR44-2]は、使用できません。

❼ [MAIN OUTPUT]端子

モニタースピーカーなどをつなぎます。この端子は、フォーンタイプ(バランス/アンバランス)のプラグ *2 をつなぎます。[MAIN OUTPUT]端子には、MIX 1の信号を出力します。出力レベルは、本体前面パネルの[OUTPUT]ノブで調節可能です。

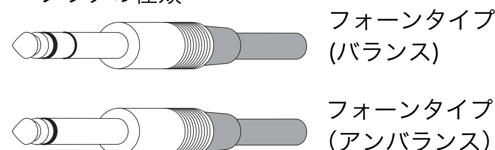
❽ [LINE OUTPUT 1〜4]端子

ライン入力をもつ外部機器をつなぎます。この端子は、フォーンタイプ(バランス/アンバランス)のプラグ *2 をつなぎます。[LINE OUTPUT 1/2]端子にはMIX 1の信号を、[LINE OUTPUT 3/4]端子にはMIX 2の信号を出力します。

❾ [LINE INPUT 5/6]端子

電子楽器などをつなぎます。この端子は、フォーンタイプ(バランス/アンバランス)のプラグ *2 をつなぎます。[LINE INPUT]端子の入力レベルは、「+4 dBu」と「-10 dBV」の切り替えができます。業務用機器をつなぐときは「+4 dBu」、民生用機器をつなぐときは「-10 dBV」に切り替えます。初期設定は「-10 dBV」です。入力レベルは、「dspMixFx UR44」の「セットアップ画面」(14ページ)または「Cubaseシリーズの専用画面」の「Settings画面」(18ページ)で切り替えます。

*2 プラグの種類



ソフトウェアについて

はじめに

ここでは、コンピューターで使用する場合のソフトウェアについて説明します。

NOTE

iPadでは、ここで説明しているソフトウェアは動作しません。

Yamaha Steinberg USB Driver (オーディオドライバー)

概要

本体とコンピューターの間でデータをやりとりするためのソフトウェアです。Yamaha Steinberg USB Driverには、コントロールパネルがあります。コントロールパネルで、Windowsではオーディオドライバーの基本設定を切り替え、Macではオーディオドライバーの情報を確認します。

Windowsの場合

画面の開きかた

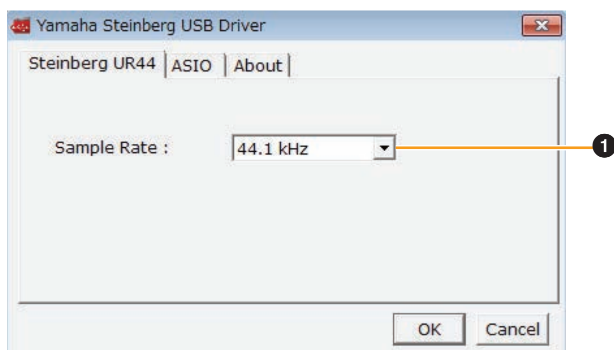
- [コントロールパネル] → [ハードウェアとサウンド] または [サウンド、音声、およびオーディオデバイス] → [Yamaha Steinberg USB Driver]
- Cubaseシリーズのメニューから、[デバイス] → [デバイス設定...] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] → [コントロールパネル]

画面の切り替えかた

画面上部のタブをクリックすると、画面が切り替わります。

Steinberg UR44画面

本体のサンプリング周波数を切り替えます。



❶ Sample Rate

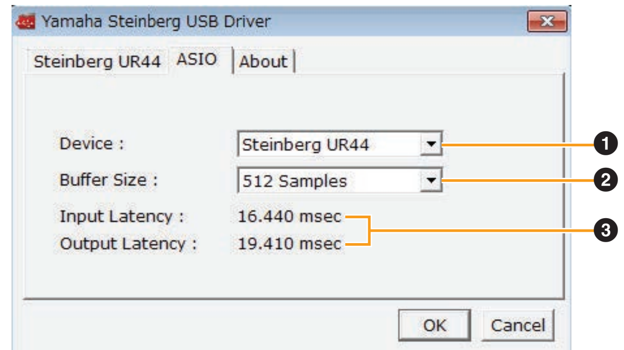
本体のサンプリング周波数を切り替えます。
選択肢：44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz

NOTE

設定できるサンプリング周波数は、DAWの対応するサンプリング周波数によって異なります。

ASIO画面

ASIOドライバーの設定を切り替えます。



❶ Device

ASIOドライバーで使う機器を切り替えます。ただし、コンピューターにYamaha Steinberg USB Driver対応機器が2台以上つながっているときに有効です。

❷ Buffer Size

ASIOドライバーのバッファーサイズを切り替えます。サンプリング周波数の値で、バッファーサイズの設定範囲が変わります。

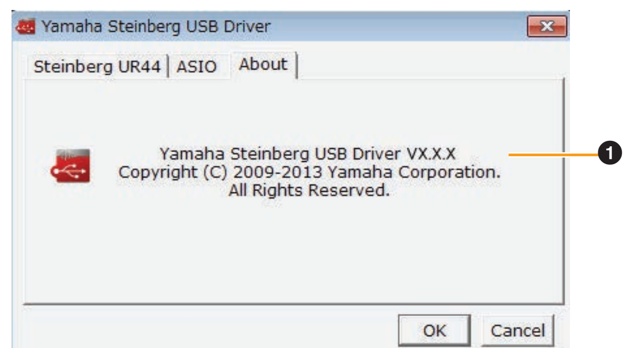
サンプリング周波数	設定範囲
44.1 kHz/48 kHz	64 Samples～2048 Samples
88.2 kHz/96 kHz	128 Samples～4096 Samples
176.4 kHz/192 kHz	256 Samples～8192 Samples

❸ Input Latency/Output Latency

オーディオ入出力信号の遅延時間(レイテンシー)を、ミリ秒単位で表示します。
レイテンシーの値は、バッファーサイズによって変わります。バッファーサイズの値を小さくするほど、レイテンシーの値が小さくなります。

About画面

オーディオドライバーの情報を表示します。



❶ About

オーディオドライバーのバージョンと著作権情報を表示します。

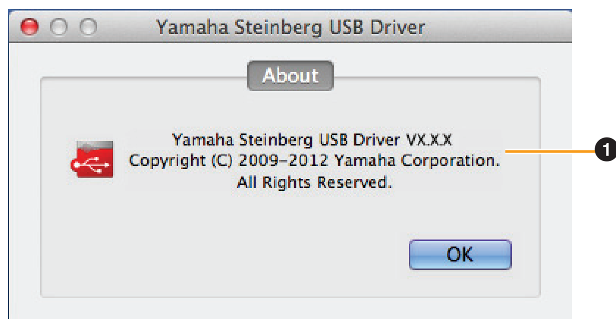
Macの場合

画面の開きかた

- [システム環境設定] → [Yamaha Steinberg USB]
- Cubaseシリーズのメニューから、[デバイス] → [デバイス設定...] → [Steinberg UR44] → [コントロールパネル] → [Open Config App]

About画面

オーディオドライバーの情報を表示します。



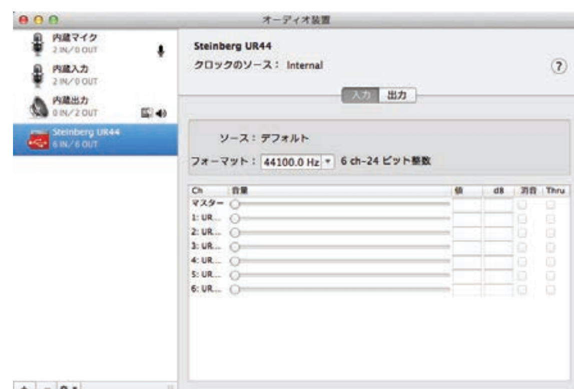
❶ About

オーディオドライバーのバージョンと著作権情報を表示します。

HINT

サンプリング周波数の切り替え

[Audio MIDI設定]で本体のサンプリング周波数を切り替えます。



バッファーサイズの切り替え

アプリケーション(DAWソフトウェアなど)から開く、バッファーサイズを変更する画面で切り替えます。



dspMixFx UR44 (ミキサー)

概要

本体に搭載されているDSPミキサーやDSPエフェクトを操作するソフトウェアです。最大6チャンネルの入力信号を2つのステレオにミックスして出力できます。入力信号には本体に搭載されているDSPエフェクトをかけることができ、ハードウェアミックスによるレイテンシーのない快適なモニター環境を構築できます。

NOTE

Cubaseシリーズ起動中は、dspMixFx UR44を操作できません。Cubaseシリーズ起動中は、「Cubaseシリーズの専用画面」(15ページ)で本体の設定を操作します。

画面の開きかた

Windows

[すべてのプログラム]または[すべてのアプリ] → [Steinberg UR44] → [dspMixFx UR44]

Mac

[アプリケーション] → [dspMixFx UR44]

名前と機能

ツールエリア

dspMixFx UR44の共通設定を操作します。



❶ 閉じる

dspMixFx UR44を終了します。

❷ 最小化

dspMixFx UR44の画面を最小化します。

❸ メニュー

dspMixFx UR44の設定ファイルの保存やシーンの取り込みなど、4つのメニューを表示します。

メニュー	説明
Open	dspMixFx UR44の設定ファイルを読み込みます。
Save	dspMixFx UR44の設定ファイルをコンピューターに保存します。
Import Scene	保存したdspMixFx UR44の設定ファイルから、1つのシーンを取り込みます。ファイル選択ダイアログでファイルを選択すると表示される[IMPORT SCENE]の画面左側では、取り込むdspMixFx UR44の設定ファイルと取り込むシーンを選びます。画面右側では、シーンの取り込み先を選びます。[OK]をクリックすると、シーンが取り込まれます。

メニュー	説明
Initialize All Scenes	保存したすべてのシーンを削除します。

❹ シーン
シーンの名前を表示します。シーンの名前をクリックすると、シーンの名前を変更できます。右側のリストボタンをクリックすると、シーンの呼び出し画面が開きます。シーンをクリックすると、そのシーンを呼び出しできます。画面の外をクリックすると、シーンの呼び出しをキャンセルできます。

❺ STORE
シーンの保存画面を開きます。STORE NAMEには、保存したいシーンの名前を入れます。No. NAMEでは、シーンの保存先を選びます。[OK]をクリックすると、シーンが保存されます。

❻ 画面の切り替え
dspMixFx UR44の画面を切り替えます。開いている画面のアイコンが赤く点灯します。

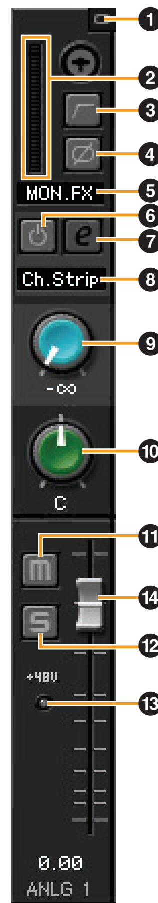
アイコン	説明
	メイン画面(11ページ)
	セットアップ画面(14ページ)
i	インフォメーション画面(15ページ)

❼ ヘルプ
オペレーションマニュアル(本書)を開きます。

メイン画面
全体の信号の流れを操作します。



チャンネルエリア
入力チャンネルの設定を操作します。



❶ チャンネルリンク
隣り合う2つのチャンネルのチャンネルリンクをオン(点灯)/オフ(消灯)します。オンにすると、2つのチャンネルがリンクして1つのステレオチャンネルとして機能します。

❷ レベルメーター
信号のレベルを表示します。

❸ ハイパスフィルター
ハイパスフィルターをオン(点灯)/オフ(消灯)します([LINE INPUT 5/6]を除く)。ハイパスフィルターのカットオフ周波数は、「dspMixFx UR44」の「セットアップ画面」(14ページ)で切り替えます。

❹ フェーズ
信号の位相の反転(180゜)をオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❺ エフェクト挿入位置
エフェクトの挿入位置を切り替えます。

選択肢	説明
MON.FX	モニター信号(本体に送る信号)だけにエフェクトをかけます。
INS.FX	モニター信号(本体に送る信号)と録音信号(DAWソフトウェアに送る信号)にChannelStripをかけます。

❻ エフェクトオン/オフ
エフェクトをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❼ エフェクトエディット
選ばれているエフェクトの設定画面を開いたり(点灯)閉じたり(消灯)します。

❽ エフェクトタイプ
エフェクトタイプを表示します。
同時に使えるChannel Strip数、Guitar Amp Classics数には制限があります。詳細は、「エフェクトの使用制限」(34ページ)をご参照ください。

❾ REV-Xセンド
REV-Xに送る信号の量(リバーブのかかり具合)を調節します。
範囲：-∞ dB ～ +6.00 dB

❿ パン
パンを調節します。
範囲：L16 ～ C ～ R16

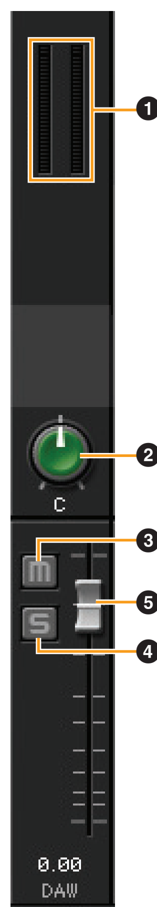
⓫ ミュート
ミュートをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

⓬ ソロ
ソロをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

⓭ +48V
本体で切り替えたファンタム電源のオン(点灯)/オフ(消灯)を表示します。

⓮ フェーダー
信号のレベルを調節します。
範囲：-∞ dB ～ +6.00 dB

DAWエリア
DAWチャンネルの設定を操作します。



❶ レベルメーター
信号のレベルを表示します。

❷ パン
パンを調節します。
範囲：L16 ～ C ～ R16

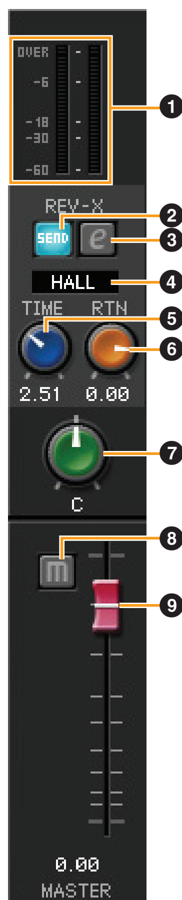
❸ ミュート
ミュートをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❹ ソロ
ソロをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❺ フェーダー
信号のレベルを調節します。
範囲：-∞ dB ～ +6.00 dB

マスターエリア

マスターチャンネルの設定を操作します。



❶ レベルメーター

信号のレベルを表示します。

❷ REV-Xセンド オン/オフ

REV-Xセンドをオン(点灯)/オフ(消灯)します。
オンにできるのは、MIX 1またはMIX 2のどれか1つです。

❸ REV-Xエディット

「REV-X」(20ページ)の設定画面を開いたり(点灯)閉じたり(消灯)します。

❹ REV-Xタイプ

REV-Xのタイプを切り替えます。
選択肢：Hall、Room、Plate

❺ REV-Xタイム

REV-Xの残響の長さを調節します。Room Sizeと連動します。REV-Xタイプによって調節範囲が異なります。

REV-Xタイプ	範囲
Hall	0.103 sec ～ 31.0 sec
Room	0.152 sec ～ 45.3 sec
Plate	0.176 sec ～ 52.0 sec

❻ REV-Xリターンレベル

REV-Xのリターンレベルを調節します。
範囲：-∞ dB ～ +6.00 dB

❼ パン

パンを調節します。
範囲：L16 ～ C ～ R16

❽ ミュート

ミュートをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❾ フェーダー

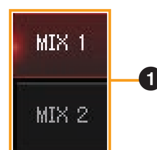
信号のレベルを調節します。
範囲：-∞ dB ～ +6.00 dB

HINT
フェーダー操作

機能	操作
0 dBに戻す	フェーダーをダブルクリック
全チャンネルのフェーダーを同時に動かす	[Ctrl]/[command] + [Shift]を押しながらフェーダーをドラッグ

MIXエリア

操作対象のMIXを選びます。



❶ MIX

操作対象のMIXを選びます。
MIXを別のMIXにドラッグ&ドロップすると、MIXのメイン画面の設定をコピーできます。

ヘッドフォンエリア

ヘッドフォンの出力信号を切り替えます。



❶ ヘッドフォン オン/オフ

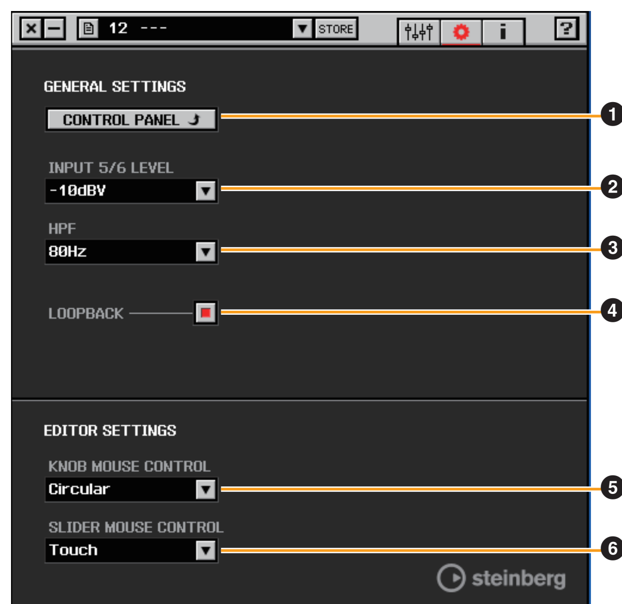
ヘッドフォンをオン(点灯)/オフ(消灯)します。オンにすると、MIXエリアで選んだMIXをPHONESに出力できます。

NOTE

[PHONES 2]端子からの出力信号は、MIX 1またはMIX 2を選択できます。[PHONES 1]端子からの出力信号は、MIX 1固定のため選択はできません。

セットアップ画面

本体の共通設定を操作します。



❶ CONTROL PANEL

Windowsでは、[オーディオドライバーのコントロールパネル]（9ページ）を開きます。Macでは、Audio MIDI設定を開きます。

❷ INPUT 5/6 LEVEL

[LINE INPUT 5/6]の入力レベルを切り替えます。
選択肢：+4 dBu、-10 dBV

❸ HPF

ハイパスフィルターのカットオフ周波数を切り替えます([LINE INPUT 5/6]を除く)。
選択肢： 120 Hz、100 Hz、80 Hz、60 Hz、40 Hz

❹ LOOPBACK

ループバック機能をオン(点灯)/オフ(消灯)します。

HINT
ループバックとは
主にインターネットを使用した生放送などの用途で、本体の入力端子に入力されているオーディオ信号（ライン、ギター、マイクなど）と、コンピューター内で使用中のソフトウェアから再生されているオーディオ信号を本機内で2チャンネルにミックスして、再度コンピューターへ戻す機能です。
ループバック機能をオンにすると、本機内のDSPミキサー（dspMixFx）のMIX 1から出力されるオーディオ信号が実際に放送される信号としてコンピューターへ出力されます。「本体内部の信号の流れ」(33ページ)参照。オーディオ録音用ソフトウェアでマルチトラック録音をする場合は、ループバック機能をオフにしてください。

❺ KNOB MOUSE CONTROL

dspMixFx UR44のノブの操作方法を切り替えます。

選択肢	説明
Circular	円を描くようにドラッグすることで値を増減します。時計回しで値が増え、反時計回しで値が減ります。ノブの任意の場所をクリックすると、ノブはクリックした場所に移動します。
Linear	直線にドラッグすることで値を増減します。上方向または右方向で値が増え、下方向または左方向で値が減ります。ノブの任意の場所をクリックしても、ノブはクリックした場所に移動しません。

❻ SLIDER MOUSE CONTROL

dspMixFx UR44のスライダー /フェーダーの操作方法を切り替えます。

選択肢	説明
Jump	スライダー /フェーダーの任意の場所をクリックすることで値を増減します。スライダー /フェーダーのハンドルがない場所をクリックすると、スライダー /フェーダーのハンドルはクリックした場所に移動します。
Touch	スライダー /フェーダーのハンドルをドラッグすることで値を増減します。スライダー /フェーダーのハンドルがない場所をクリックしても、スライダー /フェーダーのハンドルは移動しません。

インフォメーション画面

dspMixFx UR44や本体の情報を表示します。



❶ バージョン情報

ソフトウェアや本体のファームウェアのバージョンを表示します。

❷ Check for update

ソフトウェアや本体のファームウェアのバージョンが更新可能かどうか、インターネット経由で確認します。新しいバージョンが見つかったときは、画面の指示に従って更新してください。

Cubaseシリーズの専用画面(本体の設定をCubaseから操作できる画面)

概要

本体の設定をCubaseシリーズから操作できる画面です。Cubaseシリーズの専用画面を使うと、dspMixFx UR44を使って設定するパラメーターをCubaseシリーズから設定できます。入力設定画面とHardware Setup画面の2つがあります。

入力設定画面

本体の入力チャンネルの機能を操作します。信号は、上から下へ流れます。この画面の設定は、Cubaseのプロジェクトファイルに保存されます。ただし、ファンタム電源のオン/オフの表示だけは保存されません。

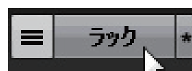


画面の開きかた

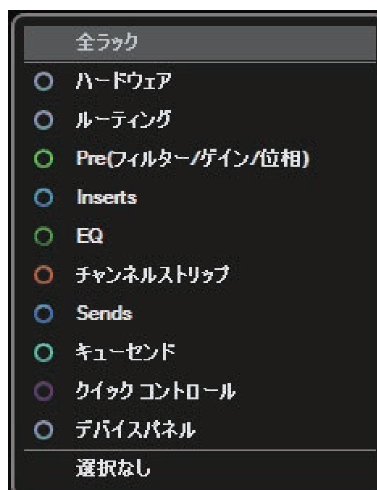
入力設定画面は、ミキサー画面の中に表示します。

1. **[デバイス] → [MixConsole]で、ミキサー画面を開きます。**

2. **[ラック]をクリックします。**

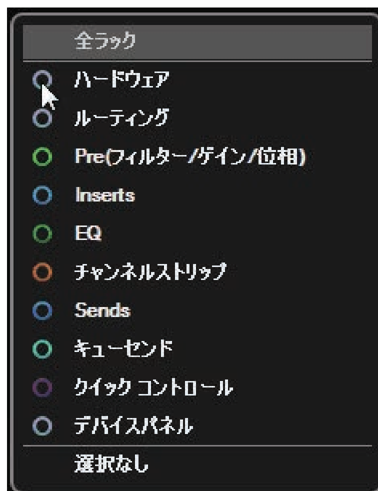


次のように[全ラック]画面を表示します。

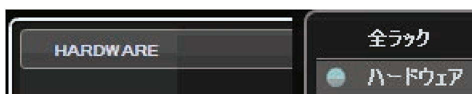


3. **[ハードウェア]横の[○]をクリックして、ミキサー画面の中に[HARDWARE]を表示します。**

○ 非表示 → ● 表示







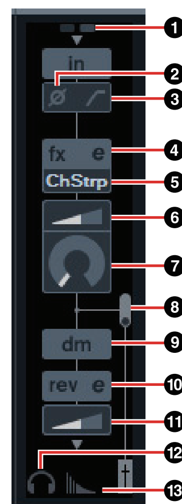
4. **[HARDWARE]をクリックします。**



次のように、ミキサー画面の中に入力設定画面を表示します。



名前と機能



❶ +48V

本体で切り替えたファンタム電源のオン(点灯)/オフ(消灯)を表示します。

❷ フェーズ

信号の位相の反転(180゜)をオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❸ ハイパスフィルター

ハイパスフィルターをオン(点灯)/オフ(消灯)します([LINE INPUT 5/6]を除く)。ハイパスフィルターのカットオフ周波数は、「Cubaseシリーズの専用画面」の「Settings画面」(18ページ)で切り替えます。

❹ エフェクトエディット

選ばれているエフェクトの設定画面を開きます。

❺ エフェクトタイプ

エフェクトを選びます。
同時に使えるChannel Strip数、Guitar Amp Classics数には制限があります。詳細は、「エフェクトの使用制限」(34ページ)をご参照ください。

❻ ドライブ/アウトプットレベル

Channel Stripを選んでいるときは、コンプレッサーのかかり具合を調節します。値を大きくするほど、かかり具合が強くなります。
範囲：0.00 ～ 10.00

Guitar Amp Classicsを選んでいるときは、アウトプットレベルを調節します。
範囲：0.00 ～ 1.00

❼ モーフ

Channel StripのSweet Spot Dataを調節します。(「Channel Strip」(19ページ)の「モーフ」を参照)
Guitar Amp Classicsを選んでいるときは、表示されません。

❽ エフェクト挿入位置
エフェクトの挿入位置を切り替えます。

挿入位置	説明
上(OFF)	エフェクトをオフにします。
中(MON.FX)	モニター信号(本体に送る信号)だけにエフェクトをかけます。
下(INS.FX)	モニター信号(本体に送る信号)と録音信号(DAWソフトウェアに送る信号)にエフェクトをかけます。

❾ ダイレクトモニタリング送出位置
Cubaseのデバイス設定でダイレクトモニタリングがオンのときに、モニター出力先へ送る信号の送出位置を表示します。

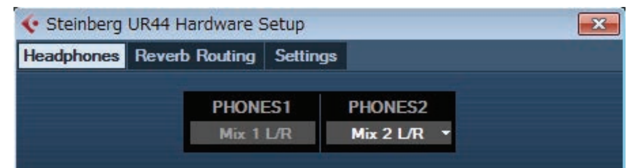
❿ REV-Xエディット
「REV-X」(20ページ)の設定画面を開きます。

⓫ REV-Xセンド
REV-Xに送る信号の量(リバーブのかかり具合)を調節します。
範囲： -∞ dB ～ +6.00 dB

⓬ Headphonesエディット
「Cubaseシリーズの専用画面」の「Headphones画面」(17ページ)を開きます。

⓭ Reverb Routingエディット
「Cubaseシリーズの専用画面」の「Reverb Routing画面」(17ページ)を開きます。

Hardware Setup画面
本体の共通設定を操作します。画面上部のタブをクリックすると、画面が切り替わります。Reverb Routing画面の設定だけ、Cubaseのプロジェクトファイルに保存されます。



画面の開きかた
[デバイス] → [Audio Hardware Setup]でHardware Setup画面を表示します。

名前と機能

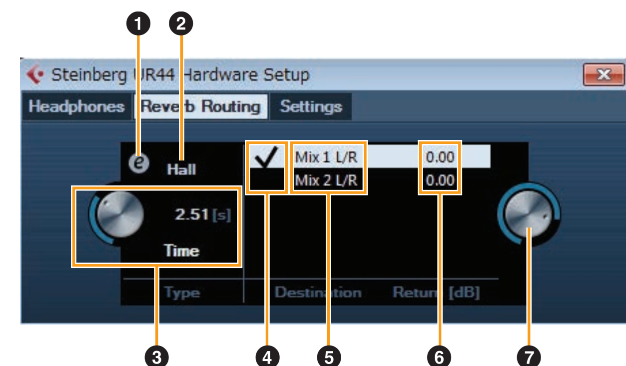
Headphones画面
本体のPHONESの出力信号を切り替えます(PHONES 2のみ)。



❶ Phones 1
[PHONES 1]の出力信号を表示します。

❷ Phones 2
[PHONES 2]の出力信号を切り替えます。

Reverb Routing画面
「REV-X」(20ページ)の設定を操作します。



❶ REV-Xエディット
「REV-X」(20ページ)の設定画面を開きます。

❷ REV-Xタイプ
REV-Xのタイプを切り替えます。
選択肢： Hall、Room、Plate

❸ REV-Xタイム
REV-Xの残響の長さを調節します。Room Sizeと連動します。REV-Xタイプによって調節範囲が異なります。

REV-Xタイプ	範囲
Hall	0.103 sec ～ 31.0 sec
Room	0.152 sec ～ 45.3 sec
Plate	0.176 sec ～ 52.0 sec

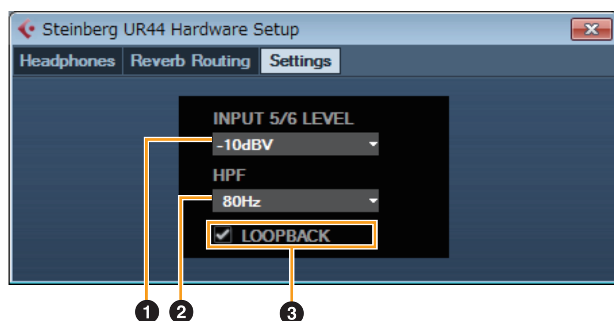
❹ REV-Xセンドソースセレクト
REV-Xに送る信号を選びます。同時に選べる信号は1つです。選んだ信号にはチェックマークが付きます。

❺ REV-Xセンドソース
REV-Xに送る信号を表示します。

❻ REV-Xリターンレベル
REV-Xのリターンレベルを表示します。

❼ REV-Xリターンレベルノブ
選んだ(反転している)信号のリターンレベルを調節します。
範囲：-∞ dB ～ +6.00 dB

Settings画面
本体の設定を操作します。



❶ INPUT 5/6 LEVEL
[LINE INPUT 5/6]の入力レベルを切り替えます。
選択肢：+4 dBu、-10 dBV

❷ HPF
ハイパスフィルターのカットオフ周波数を切り替えます([LINE INPUT 5/6]を除く)。
選択肢：120 Hz、100 Hz、80 Hz、60 Hz、40 Hz

❸ LOOPBACK
ループバック機能をチェックボックスでオンにします。
「LOOPBACK」(14ページ)を参照。

Sweet Spot Morphing Channel Strip (コンプレッサー&イコライザー)

概要
Sweet Spot Morphing Channel Strip (Channel Strip)とは、コンプレッサーとイコライザーを組み合わせたエフェクトです。プロフェッショナルエンジニアのノウハウが凝縮されたセッティングがあらかじめ用意されており、簡単な操作でプロ並みの効果を得ることができます。

本体には、4基のChannel Stripが搭載されています。Channel Stripは、モニター信号だけにかけるか、モニター信号と録音信号の両方にかけるかを選べます。

本体に搭載されているDSPエフェクトのChannel Stripと、VSTプラグイン版のChannel Stripは、同じ機能です。Cubaseシリーズで使うと、DSPエフェクトのChannel StripとVSTプラグイン版のChannel Stripの設定をプリセットで共有できます。なお、CubaseシリーズでDSPエフェクトのChannel Stripを使うときは、Cubaseシリーズの[ダイレクトモニタリング]をオンにする必要があります。また、CubaseシリーズでVSTプラグイン版のChannel Strip を使うときは、[Dynamics]のカテゴリーから選びます(初期設定の場合)。ただし、サンプリング周波数が176.4 kHzまたは192 kHzの場合、本体に搭載されているDSPエフェクトのChannel Stripは使用できません。

画面の開きかた

Cubaseシリーズの専用画面から
「入力設定画面」の「エフェクトタイプ」(16ページ)でChannel Stripを選んだ後、「エフェクトエディット」をクリックします。

dspMixFx UR44から
「チャンネルエリア」の「エフェクトタイプ」(12ページ)でChannel Stripを選んだ後、「エフェクトエディット」をクリックします。

名前と機能

コンプレッサーとイコライザー共通



❶ ノブ

Sweet Spot Dataのパラメーターを調節します。このノブを回すと、ノブの回りの5つの点それぞれに保存されたコンプレッサーとイコライザーの設定(Sweet Spot Data)を、同時に動かすことができます。2点の中間にノブを合わせた場合、コンプレッサーとイコライザーの設定は、2点の中間の設定になります。

❷ Sweet Spot Data

Sweet Spot Dataを選びます。

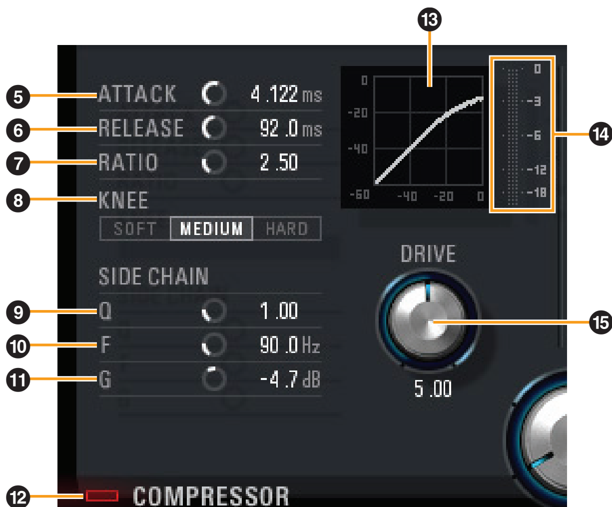
❸ TOTAL GAIN

Channel Strip全体のゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB 〜 +18.0 dB

❹ レベルメーター

Channel Stripの出力レベルを表示します。

コンプレッサー



❺ ATTACK

コンプレッサーのアタックタイムを調節します。
範囲：0.092 msec 〜 80.00 msec

❻ RELEASE

コンプレッサーのリリースタイムを調節します。
範囲：9.3 msec 〜 999.0 msec

❼ RATIO

コンプレッサーのレシオを調節します。
範囲：1.00 〜 ∞

❽ KNEE

コンプレッサーのニーのタイプを選びます。

ニータイプ	説明
SOFT	自然に音量が変化します。
MEDIUM	SOFTとHARDの中間です。
HARD	はっきりと音量が変化します。

❾ SIDE CHAIN Q

サイドチェーンフィルターのQを調節します。
範囲：0.50 〜 16.00

❿ SIDE CHAIN F

サイドチェーンフィルターの中心周波数を調節します。
範囲：20.0 Hz 〜 20.0 kHz

⓫ SIDE CHAIN G

サイドチェーンフィルターのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB 〜 +18.0 dB

⓬ COMPRESSORオン/オフ

コンプレッサーをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

⓭ コンプレッサーカーブ

コンプレッサーの特性を表示するグラフです。縦軸は出力信号レベル、横軸は入力信号レベルです。

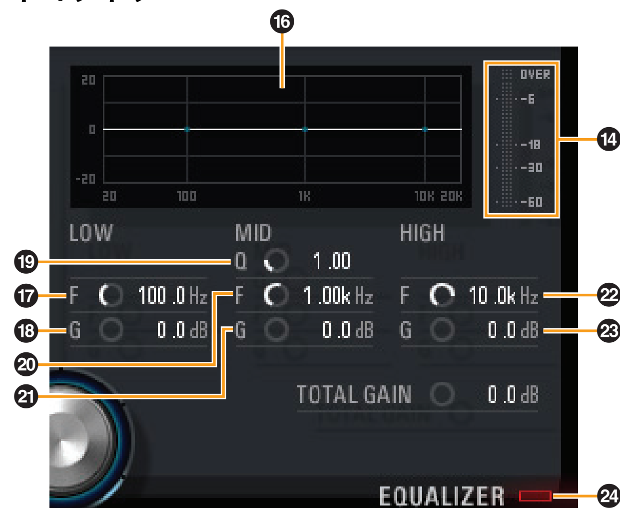
⓮ ゲインリダクションメーター

コンプレッサーのゲインリダクション量を表示します。

⓯ DRIVE

コンプレッサーのかかり具合を調節します。値を大きくするほど、かかり具合が強くなります。
範囲：0.00 〜 10.00

イコライザー



⑯ イコライザーカーブ
3バンドイコライザーの特性を表示するグラフです。縦軸はゲインの増減量、横軸は周波数です。グラフの中のハンドルをマウスでドラッグすると、LOW、MID、HIGHを調節できます。

⑰ LOW F
ローバンドの中心周波数を調節します。
範囲：20.0 Hz ～ 1.00 kHz

⑱ LOW G
ローバンドのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

⑲ MID Q
ミドルバンドのQを調節します。
範囲：0.50 ～ 16.00

⑳ MID F
ミドルバンドの中心周波数を調節します。
範囲：20.0 Hz ～ 20.0 kHz

㉑ MID G
ミドルバンドのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

㉒ HIGH F
ハイバンドの中心周波数を調節します。
範囲：500.0 Hz ～ 20.0 kHz

㉓ HIGH G
ハイバンドのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

㉔ EQUALIZERオン/オフ
イコライザーをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

REV-X (リバーブ)

概要

REV-Xとは、ヤマハがプロオーディオ機器用に開発したデジタルリバーブエフェクトです。

本体には、1基のREV-Xが搭載されています。本体に入力する信号を、REV-Xに送ることができます。REV-Xは、モニター信号だけにかけることができます。REV-Xには、Hall、Room、Plateの3つのタイプがあります。

本体に搭載されているDSPエフェクトのREV-Xと、VSTプラグイン版のREV-Xは、同じ機能です。ただし、画面下部にある[OUTPUT]と[MIX]は、VSTプラグイン版だけにあります。Cubaseシリーズで使うと、DSPエフェクトのREV-XとVSTプラグイン版のREV-Xの設定をプリセットで共有できます。なお、CubaseシリーズでDSPエフェクトのREV-Xを使うときは、Cubaseシリーズの[ダイレクトモニタリング]をオンにする必要があります。また、CubaseシリーズでVSTプラグイン版のREV-Xを使うときは、[Reverb]のカテゴリーから選びます(初期設定の場合)。

DSPエフェクトのREV-Xには、DAWから直接信号を送るための「FX Bus」があります。たとえば、録音したオーディオトラックからFX Busにセンドで信号を送ることで、録音時にモニター信号に使ったREV-Xの音を、再生時でも確かめることができます。

画面の開きかた

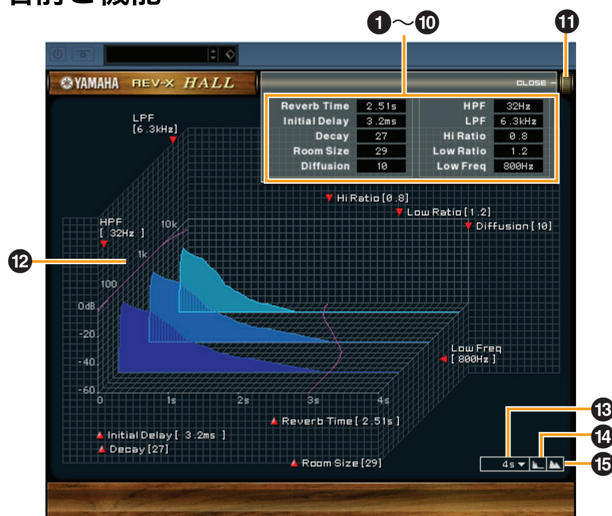
Cubaseシリーズの専用画面から

- 「入力設定画面」の「REV-Xエディット」(17ページ)をクリックします。
- 「Reverb Routing画面」の「REV-Xエディット」(17ページ)をクリックします。

dspMixFx UR44から

「マスターエリア」の「REV-Xエディット」(13ページ)をクリックします。

名前と機能



NOTE

ここでは、Hallタイプを例に説明します。

❶ Reverb Time

残響の長さを調節します。Room Sizeと連動します。REV-Xタイプによって調節範囲が異なります。

REV-Xタイプ	範囲
Hall	0.103 sec 〜 31.0 sec
Room	0.152 sec 〜 45.3 sec
Plate	0.176 sec 〜 52.0 sec

❷ Initial Delay

残響がかかりはじめるまでの時間を調節します。
範囲：0.1 msec 〜 200.0 msec

❸ Decay

残響が鳴り始めてから消えるまでの特性を調節します。
範囲：0 〜 63

❹ Room Size

残響の空間の広さを調節します。Reverb Timeと連動します。
範囲：0 〜 31

❺ Diffusion

残響の密度や広がりを調節します。
範囲：0 〜 10

❻ HPF

残響の低音域が減衰する周波数を調節します。
範囲：20 Hz 〜 8.0 kHz

❼ LPF

残響の高音域が減衰する周波数を調節します。
範囲：1.0 kHz 〜 20.0 kHz

❽ Hi Ratio

残響の高音域の長さを、Reverb Timeとの比率で調節します。値が1.0のとき、Reverb Timeと同じ長さになります。値を小さくするほど、残響の高音域が短くなります。
範囲：0.1 〜 1.0

❾ Low Ratio

残響の低音域の長さを、Reverb Timeとの比率で調節します。値が1.0のとき、Reverb Timeと同じ長さになります。値を小さくするほど、残響の低音域が短くなります。
範囲：0.1 〜 1.4

❿ Low Freq

Low Ratioの周波数を調節します。
範囲：22.0 Hz 〜 18.0 kHz

⓫ OPEN/CLOSE

残響を調節する画面を開いたり、閉じたりします。

⓬ グラフ

残響の特性を表示するグラフです。縦軸が信号レベル、横軸が時間、斜め軸が周波数を表わしています。グラフの中のハンドルをマウスでドラッグすると、残響の特性を調節できます。

⓭ 時間軸設定

グラフの時間(横軸)の表示範囲を切り替えます。
表示範囲：500 msec 〜 50 sec

⓮ ズームアウト

グラフの時間軸(横軸)の表示をズームアウトします。

⓯ ズームイン

グラフの時間軸(横軸)の表示をズームインします。

HINT

- 各ソフトウェアの一部のノブやスライダー /フェーダーは、[Ctrl]/[command]キーを押しながらクリックすると、初期値に戻すことができます。
- 各ソフトウェアの一部のノブやスライダー /フェーダーは、[SHIFT]キーを押しながらドラッグすると、値を細かく増減できます。

Guitar Amp Classics

概要

Guitar Amp Classicsとは、ヤマハがモデリング技術を駆使して開発したギターアンプエフェクトです。サウンドキャラクター別に4種類のアンプタイプがあります。

ただし、サンプリング周波数が176.4 kHzまたは192 kHzの場合、Guitar Amp Classicsは使用できません。

同時に使えるChannel Strip数、Guitar Amp Classics数には制限があります。詳細は、「エフェクトの使用制限」(34ページ)をご参照ください。

画面の開き方

Cubaseシリーズの専用画面から

「入力設定画面」の「エフェクトタイプ」(16ページ)でGuitar Amp Classicsを選んだ後、「エフェクトエディット」をクリックします。

dspMixFx UR44から

「チャンネルエリア」の「エフェクトタイプ」(12ページ)でGuitar Amp Classicsを選んだ後、「エフェクトエディット」をクリックします。

名前と機能

CLEAN



主にクリーントーンで使うアンプタイプです。トランジスタアンプ特有の、ハリのあるキラキラしたサウンドをエミュレートしています。マルチエフェクターなどをかけ録りするときなどに、非常に使いやすいサウンドキャラクターを持っています。また、アンプ独自のコーラスとビブラートが用意されています。

❶ VOLUME

入力レベルを調節します。

❷ DISTORTION

歪み量を調節します。

❸ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❹ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❺ Cho/OFF/Vib

エフェクトのオン/オフを切り替えます。[Cho]に合わせるとコーラスが、[Vib]に合わせるとビブラートが、それぞれオンになります。

❻ SPEED/DEPTH

Vib(ビブラート)がオンのときに、音の揺らぎのスピードと深さを調節します。
Cho(コーラス)がオンのときとエフェクトがオフのときは機能しません。

❼ BLEND

原音とエフェクト音のバランスを調節します。

❽ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

CRUNCH



軽く歪んだクランチサウンドで使うアンプタイプです。ブルースやロック、ソウル、R&Bなどでよく使われるビンテージタイプのチューブアンプのようなサウンドをエミュレートしています。

❶ Normal/Bright

サウンドキャラクターを切り替えます。[Bright]に合わせると、高音域の倍音が強調されます。

❷ GAIN

プリアンプ部への入力レベルを調節します。右にまわすほど歪み量が大きくなります。

❸ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❹ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❺ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

DRIVE



主にディストーションサウンドで使用するアンプタイプです。高出力なハイゲインチューブアンプをエミュレートしています。軽く歪んだクランチサウンドから、ハードロック/ヘビーメタル/ハードコアなどでよく使われる強力なディストーションサウンドまで、幅広い音づくりができます。

❶ AMP TYPE

6種類のタイプから選びます。
1と2は、歪み成分がほかのタイプよりも少なめで、ピッキングのタッチが生々しく表現されるタイプ、3と4は倍音に厚みがあり、太くて柔らかいフィーリングを持つタイプ、5と6はタイトなアタック感と荒々しさを持つアグレッシブなタイプとなっています。また、偶数番号のタイプは、奇数番号のタイプに比べてプレゼンスのレンジが広くなっています。

❷ GAIN

プリアンプ部の入力レベルを調節します。右にまわすほど歪み量が大きくなります。

❸ MASTER

プリアンプ部の出力レベルを調節します。

❹ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❺ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❻ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

LEAD



主にリードギターで使用するアンプタイプです。倍音の豊かなハイゲインチューブアンプをエミュレートしています。音抜けのよいリードや、シャープなバッキングに合った音づくりができます。

❶ High/Low

アンプの出力タイプを選びます。[High]を選ぶとより高出力なアンプタイプになり、より歪み成分の多い音づくりができます。

❷ GAIN

プリアンプ部の入力レベルを調節します。右にまわすほど歪み量が大きくなります。

❸ MASTER

プリアンプ部の出力レベルを調節します。

❹ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❺ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❻ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

HINT

GAIN/MASTER/OUTPUTの役割について

DRIVEとLEADは、GAIN/MASTER/OUTPUTの組み合わせで音づくりをします。GAINはプリアンプ部の入力レベルを調節するので、歪み量が変わります。MASTERはプリアンプ部からパワーアンプ部への出力レベルの調整です。GAINとMASTERは、ギターアンプの音質に影響が大きく、パワーアンプを十分にドライブした音にするには、MASTERも大きめに設定しなければなりません。そこで、エフェクトの最終的な音量を調節するOUTPUTを用意しています。OUTPUTで最終的な音量を調節することで、歪み具合などの音質に影響なくギターの音量を調節できます。

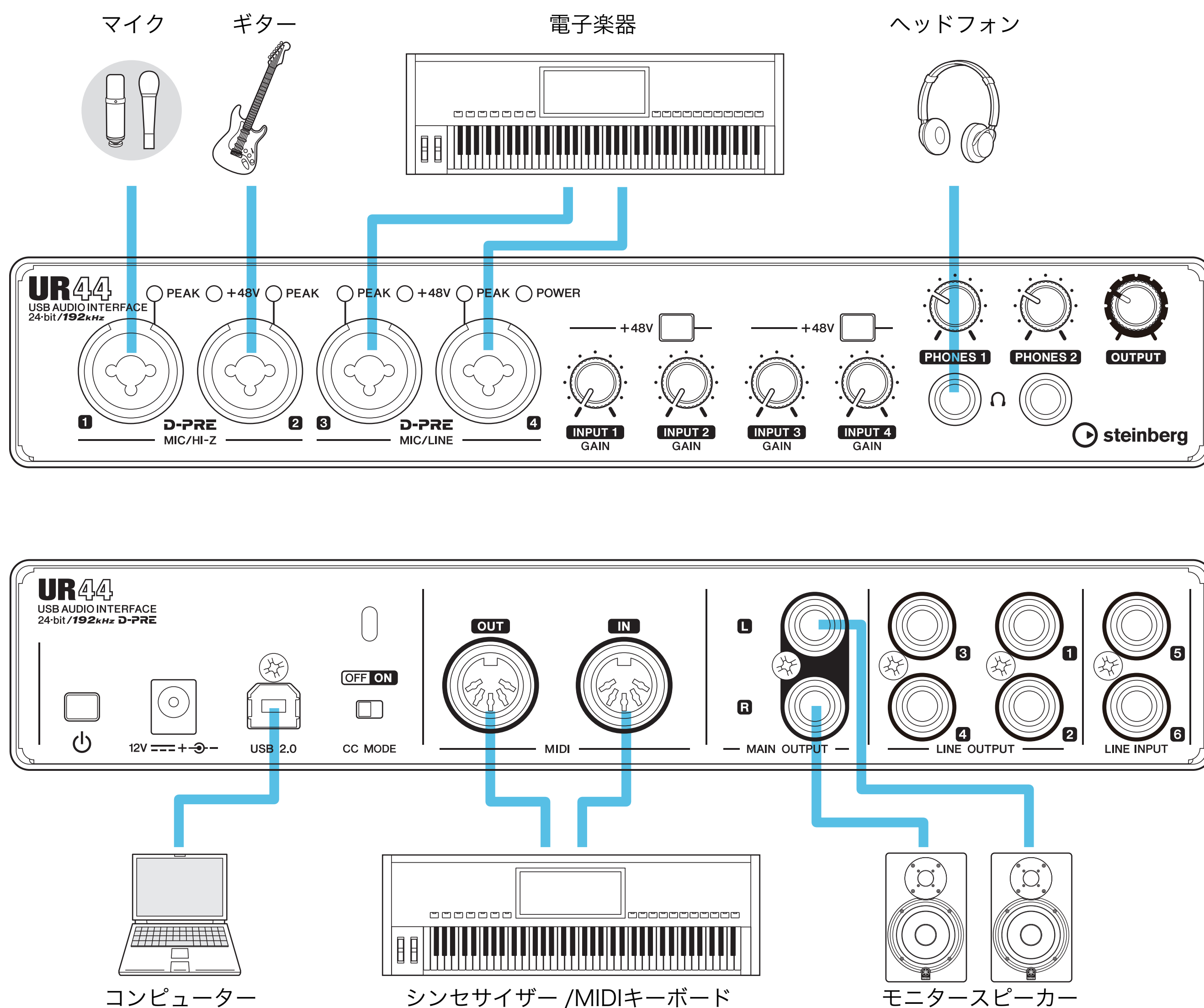
使いかた

コンピューターで使う

はじめに

製品の使いかたを紹介します。ここでの内容は、製品に付属の取扱説明書「セットアップガイド」に沿ってTOOLS for UR44のインストールが完了していることを前提としています。

接続のしかた



⚠注意

ほかの機器との接続ケーブルを抜き差しするときは、必ず本体およびほかの機器の出力信号レベルを最小にしてください。大音量が出て、聴力障害、または機器の損傷になることがあります。

DAWソフトウェアのオーディオ設定

Cubaseシリーズ

1. **DAWソフトウェアが終了していることを確かめます。**

2. **本体の電源がオン(▬)になっていることを確かめます。**

3. **デスクトップにあるCubaseシリーズのショートカットをダブルクリックして、Cubaseシリーズを起動します。**

4. **起動中、[ASIOドライバー選択]画面が表示されたときは、本体が選ばれていることを確認して、[OK]をクリックします。**

以上で、設定は完了です。

Cubaseシリーズ以外のDAWソフトウェア

1. **DAWソフトウェアが終了していることを確かめます。**

2. **本体の電源がオン(▬)になっていることを確かめます。**

3. **DAWソフトウェアを起動します。**

4. **オーディオインターフェースを設定する画面を開きます。**

5. **(Windowsのみ) DAWソフトウェアが使用するドライバーを、ASIOに設定します。**

6. **次のように、ASIOドライバー (Windows)またはオーディオインターフェース(Mac)を設定します。**

   Windows
   ASIOドライバーを[Yamaha Steinberg USB ASIO]に設定します。

   Mac
   使用するオーディオインターフェースをUR44に設定します。

以上で、設定は完了です。

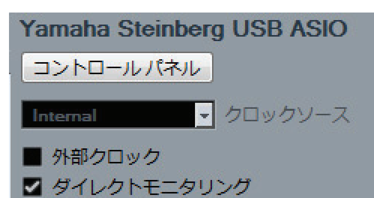
録音/再生のしかた

Cubaseシリーズ

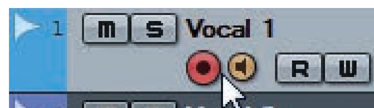
1. **Cubaseシリーズを起動します。**
   [steinberg hub]画面を表示します。

2. **[steinberg hub]画面で、[レコーディング]の中にあるプロジェクトテンプレート[Steinberg UR44 Vocal-Inst Recording 1-C7]を選んで、[作成]をクリックします。**

3. **次の方法で、ダイレクトモニタリングをオンにします。**
   [デバイス] → [デバイス設定...] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] (Windows)または[Steinberg UR44] (Mac) → [ダイレクトモニタリング]にチェックを入れる → [OK]



4. **オーディオトラックの[録音可能]と[モニタリング]がオン(点灯)になっていることを確かめます。**



5. **マイクで音声を入力しながら、本体の[INPUT GAIN]ノブでマイクの入力信号レベルを調節します。**
   最適な録音レベルにするために、[INPUT GAIN]ノブで[PEAK]インジケーターが赤く点灯するまで入力信号レベルをあげます。そのあと、一番大きな音のときに一瞬点灯するレベルになるまでゆっくりとさげます。

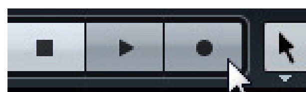
6. **マイクで音声を入力しながら、本体の[PHONES]ノブでヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。**

7. 入力設定画面で、Channel StripとREV-Xの設定をします。

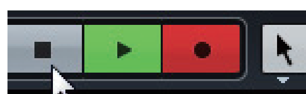
Channel Stripのかけかたによって、Channel Strip挿入位置を選びます。初期設定は「下」(かけ録り)です。Channel Strip挿入位置の詳細は、「Cubaseシリーズの専用画面」の「エフェクト挿入位置」(17ページ)をご参照ください。



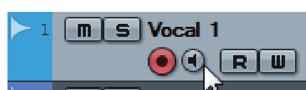
8. [●]をクリックして、録音を開始します。



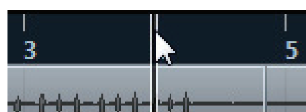
9. 録音が終わったら、[■]をクリックして停止します。



10. オーディオトラックの[モニタリング]をオフ(消灯)にします。

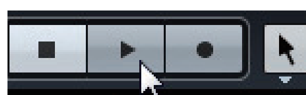


11. ルーラーをクリックして、再生を開始したい位置にプロジェクトカーソルを移動します。



12. [▶]をクリックして再生し、録音した音を聴きます。

モニタースピーカーで音を聴くときは、本体の[OUTPUT]ノブで出力信号レベルを調節します。



Cubaseシリーズの詳しい使いかたは、Cubaseシリーズのメニュー [ヘルプ]から開くPDF形式のマニュアルをお読みください。

Cubaseシリーズ以外のDAWソフトウェア

1. DAWソフトウェアを起動します。

2. dspMixFx UR44を開きます。

dspMixFx UR44の開きかたは、「dspMixFx UR44」の「画面の開きかた」(10ページ)をご参照ください。

3. マイクで音声を入力しながら、本体の[INPUT GAIN]ノブでマイクの入力信号レベルを調節します。

最適な録音レベルにするために、[INPUT GAIN]ノブで[PEAK]インジケーターが赤く点灯するまで入力信号レベルをあげます。そのあと、一番大きな音のときに一瞬点灯するレベルになるまでゆっくりとさげます。

4. マイクで音声を入力しながら、本体の[PHONES]ノブでヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。

5. dspMixFx UR44で、Channel StripとREV-Xの設定をします。

6. DAWソフトウェアで、録音を開始します。

7. 録音が終わったら、停止します。

8. 録音した部分を再生して、音を確かめます。

DAWソフトウェアの詳しい使いかたは、DAWソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

iPadで使う

はじめに

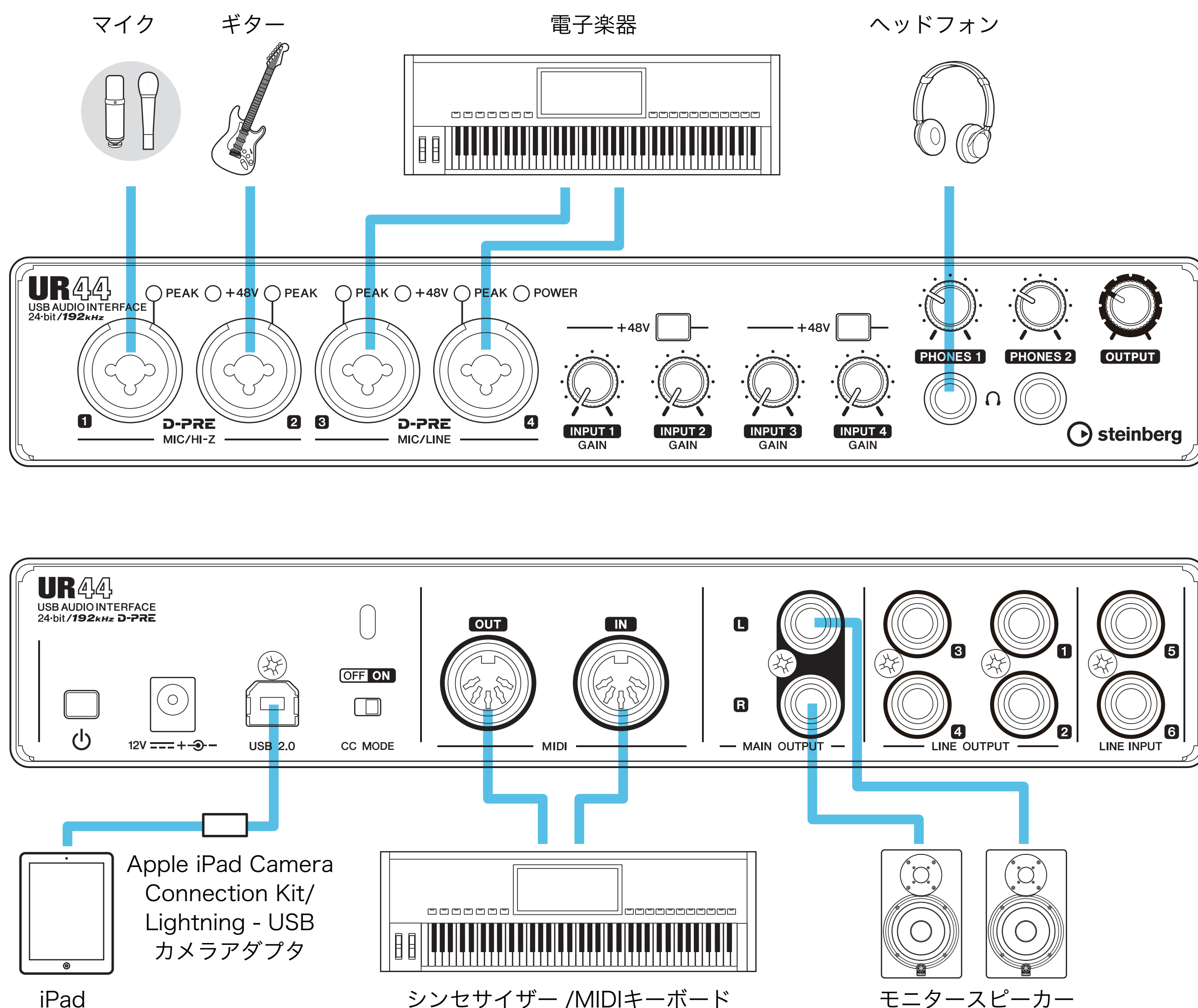
ここでは例として、Cubasis (別売のiPad用アプリケーション)を使って説明します。ここでの内容は、製品に付属の取扱説明書「セットアップガイド」に沿って、iPadで使用する場合の設定が完了していることを前提としています。

Cubasisの詳細は、以下のSteinbergウェブサイトをご参照ください。

http://japan.steinberg.net/jp/products/ios_apps/cubasis.html

※サポートは、Steinbergウェブサイトのフォーラム(英語)で提供しています。

接続のしかた



⚠注意

ほかの機器との接続ケーブルを抜き差しするときは、必ず本体およびほかの機器の出力信号レベルを最小にしてください。大音量が出て、聴力障害、または機器の損傷になることがあります。

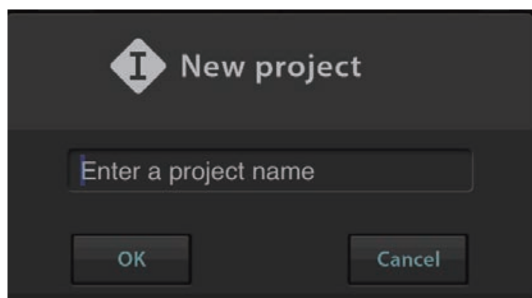
録音/再生のしかた

1. [CC MODE]スイッチをオンにして本体の電源をオン(▬)にします。

2. Cubasisを起動します。

3. Project [Template]をダブルタップします。

4. [New project]画面にて、プロジェクト名を入力し、[OK]をタップします。



5. [+AUDIO]をタップして[Audio Track]を追加します。







6. 画面左横のタブにある ▶ をタップして、[Audio input]を表示します。







7. をタップして詳細画面を表示し、数値をタップして楽器やマイクを接続している入力端子にあわせます。



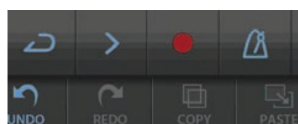
8. をタップしてモニタリングをオン(点灯)にします。

9. マイクで音声を入力しながら、本体の[INPUT GAIN]ノブでマイクの入力信号レベルを調節します。

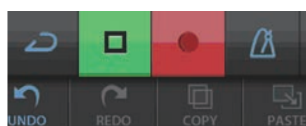
最適な録音レベルにするために、[INPUT GAIN]ノブで[PEAK]インジケーターが赤く点灯するまで入力信号レベルをあげます。そのあと、一番大きな音のときに一瞬点灯するレベルになるまでゆっくりとさげます。

10. マイクで音声を入力しながら、本体の[PHONES]ノブでヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。

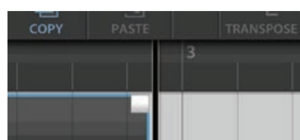
11. **[●]をタップして、録音を開始します。**



12. **録音が終わったら、[□]をタップして停止します。**

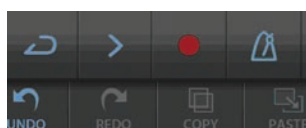


13. **ルーラーをドラッグして、再生を開始したい位置にプロジェクトカーソルを移動します。**



をタップすることで、録音を開始した位置に戻ることもできます。

14. **[>]をタップして再生し、録音した音を聴きます。**



dspMixFx for iPad

iPadからはdspMixFx for iPadを使って本体に搭載されているDSPミキサーやDSPエフェクトを操作できます。詳細は、Steinbergウェブサイトをご参照ください。

http://japan.steinberg.net/

困ったときは

[POWER]インジケーターがつかない

・電源アダプターをつなげていますか？

バスパワーでは動作しません。セットアップガイドを参照して、電源を入れてください。

[POWER]インジケーターが点滅したままで点灯へ切り替わらない

・[CC MODE]スイッチの設定は適切ですか？

「リアパネル」(7ページ)を参照して、[CC MODE]スイッチの設定が正しいかを確かめてください。

・(コンピューターのみ) TOOLS for UR44のインストールは完了しましたか？

セットアップガイドを参照して、TOOLS for UR44のインストールを完了してください。

・コンピューターまたはiPadの電源は入れましたか？

セットアップガイドを参照して、コンピューターまたはiPadの電源をオンにしてください。

・適切なUSB ケーブルをお使いですか?

USBケーブルが断線などで劣化している場合は、新しいUSBケーブルに交換してください。また3メートル以下のUSBケーブルをお使いください。

音が鳴らない

・本体のレベルはあがっていますか？

[OUTPUT]ノブや[PHONES]ノブのレベルを確かめてください。

・本体が、マイクやモニタースピーカーと正しくつながっていますか？

「接続のしかた」(24ページ、27ページ)を参照して、マイクやモニタースピーカーが正しくつながっていることを確かめてください。

・[CC MODE]スイッチの設定は適切ですか？

「リアパネル」(7ページ)を参照して、[CC MODE]スイッチの設定が正しいかを確かめてください。

・DAWソフトウェアのオーディオ設定は完了しましたか？

「DAWソフトウェアのオーディオ設定」(25ページ)を参照して、DAWソフトウェアのオーディオ設定が完了していることを確かめてください。完了していなければ、もう一度設定してください。

・Cubaseシリーズの[ASIOドライバー]の設定は適切ですか？

Cubaseシリーズのメニューから、[デバイス] → [デバイス設定...] → [VSTオーディオシステム]を開き、右側の[ASIOドライバー]に[Yamaha Steinberg USB ASIO] (Windows)または [Steinberg UR44] (Mac)が選ばれていることを確かめてください。

・DAWソフトウェアの起動前に、本体の電源をオンにしましたか？

本体とコンピューターをつなげて、本体の電源をオンにしたあと、DAWソフトウェアを起動してください。

・(コンピューターのみ) TOOLS for UR44のインストールは完了しましたか？

セットアップガイドを参照して、TOOLS for UR44のインストールを完了してください。

・使っていないUSB機器が、コンピューターにつながっていませんか？

使っていないUSB機器を外したあと、音を確かめてください。

・コンピューター上で、たくさんのアプリケーションを起動していませんか？

使っていないアプリケーションを終了したあと、音を確かめてください。

音が正常に鳴らない(ノイズ、音切れ、歪み)

• バッファーサイズが小さすぎませんか？

オペレーションマニュアルの「Yamaha Steinberg USB Drivrer」(9ページ) を参照して、バッファーサイズを確かめてください。

• お使いのコンピューターは、動作環境を満たしていますか？

動作環境を確かめてください。最新の情報は、以下のSteinbergウェブサイトをご参照ください。

http://japan.steinberg.net/

• DAWソフトウェア上で、たくさんのオーディオトラックを再生していませんか？

お使いのコンピューターの性能によっては、たくさんのオーディオトラックを再生すると音が途切れたりすることがあります。オーディオトラックを少なくして、音を確かめてください。

• 有線/無線LANなどのネットワークアダプターは動作していませんか？

ネットワークアダプターの動作を停止してみてください。ネットワークアダプターがノイズの原因になることがあります。

最新のサポート情報は、以下のSteinbergウェブサイトをご参照ください。

http://japan.steinberg.net/

資料

TOOLS for UR44のアンインストール

TOOLS for UR44のアンインストールは、以下のソフトウェアを個別に削除する必要があります。

・Yamaha Steinberg USB Driver

・Steinberg UR44 Application

・Basic FX Suite

下記の手順でアンインストールしてください。

Windows

1. コンピューターから、マウスとキーボード以外のUSB機器をすべて外します。

2. コンピューターを起動して、管理者権限のあるアカウントでログオンします。

アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。

3. 次の方法で、アンインストールするための画面を表示します。

[コントロールパネル] → [プログラムのアンインストール]を選択し、[プログラムのアンインストールまたは変更]を表示します。

4. リストから、削除するソフトウェアを１つ選びます。

・Yamaha Steinberg USB Driver

・Steinberg UR44 Application

・Basic FX Suite

5. 次の方法でアンインストールします。

[アンインストール]/[アンインストールと変更]をクリックします。[ユーザーアカウント制御]画面が表示された場合は、[続行]または[はい]をクリックします。ダイアログが表示されるので、画面の指示に従ってアンインストールします。

以上で、TOOLS for UR44のアンインストールは完了です。

Mac

1. コンピューターから、マウスとキーボード以外のUSB機器をすべて外します。

2. コンピューターを起動して、管理者権限のあるアカウントでログインします。

アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。

3. TOOLS for UR44 CD-ROMをCD-ROMドライブに入れます。

4. CD-ROMを開き、以下のファイルをダブルクリックします。

・Uninstall Yamaha Steinberg USB Driver

・Uninstall Steinberg UR44 Applicatio n

・Uninstall Basic FX Suite

5. 「Welcome to the * uninstaller.」と表示されるので、[Run]をクリックします。**

***にはソフトウェアの名前が入ります。

以降は、画面の指示に従って削除を進めてください。

6. 削除が終わると、「Uninstallation completed.」と表示されます。[Restart]をクリックします。

7. コンピューターの再起動を促す画面が表示されるので、[再起動]をクリックします。

以上で、TOOLS for UR44のアンインストールは完了です。

本体内部の信号の流れ

下の図は、本体内部の信号の流れを示すものです。

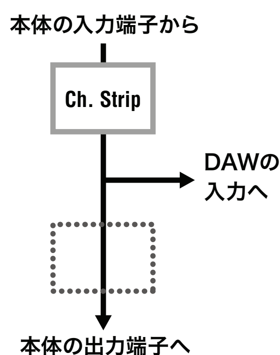
NOTE

- 本体の操作子([INPUT GAIN]ノブ、[OUTPUT]ノブなど)は省いています。
- 各設定は、「Cubaseシリーズの専用画面」(15ページ)または「dspMixFx UR44」(10ページ)で変更します。
- サンプリング周波数が176.4 kHzまたは192 kHzの場合、本体に搭載されているDSPエフェクトのChannel StripやGuitar Amp Classicsは使用できません。

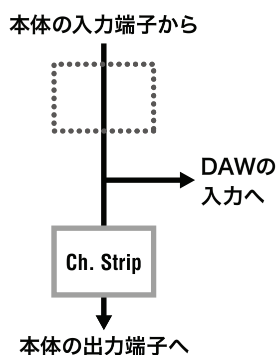
[MIC/HI-Z 1]から
[MIC/HI-Z 2]から
[LINE INPUT6]から
[MIDI IN]から
[MIDI OUT]へ
Ch. Strip
*1
LOOPBACK OFF/ON
USB
DAWの入力へ
DAWの出力から
[PHONES 1]へ
[MAIN OUTPUT]と[LINE OUTPUT 1/2]へ
[LINE OUTPUT 3/4]へ
[PHONES 2]へ
出力の切り替え
MIX 1
MIX 2
REV-Xの切り替え *2
REV-X センド レベル
REV-X リターン レベル
REV-X

*1 エフェクトの挿入位置を、以下に示します。

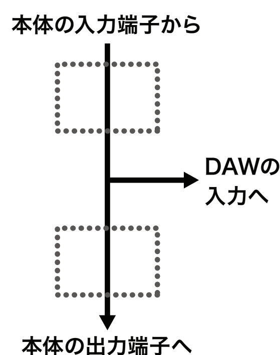
上側に挿入(INS.FX)



下側に挿入(MON.FX)



使用しない



*2 REV-Xには、MIX 1か2のどちらか1つの信号を送れます。

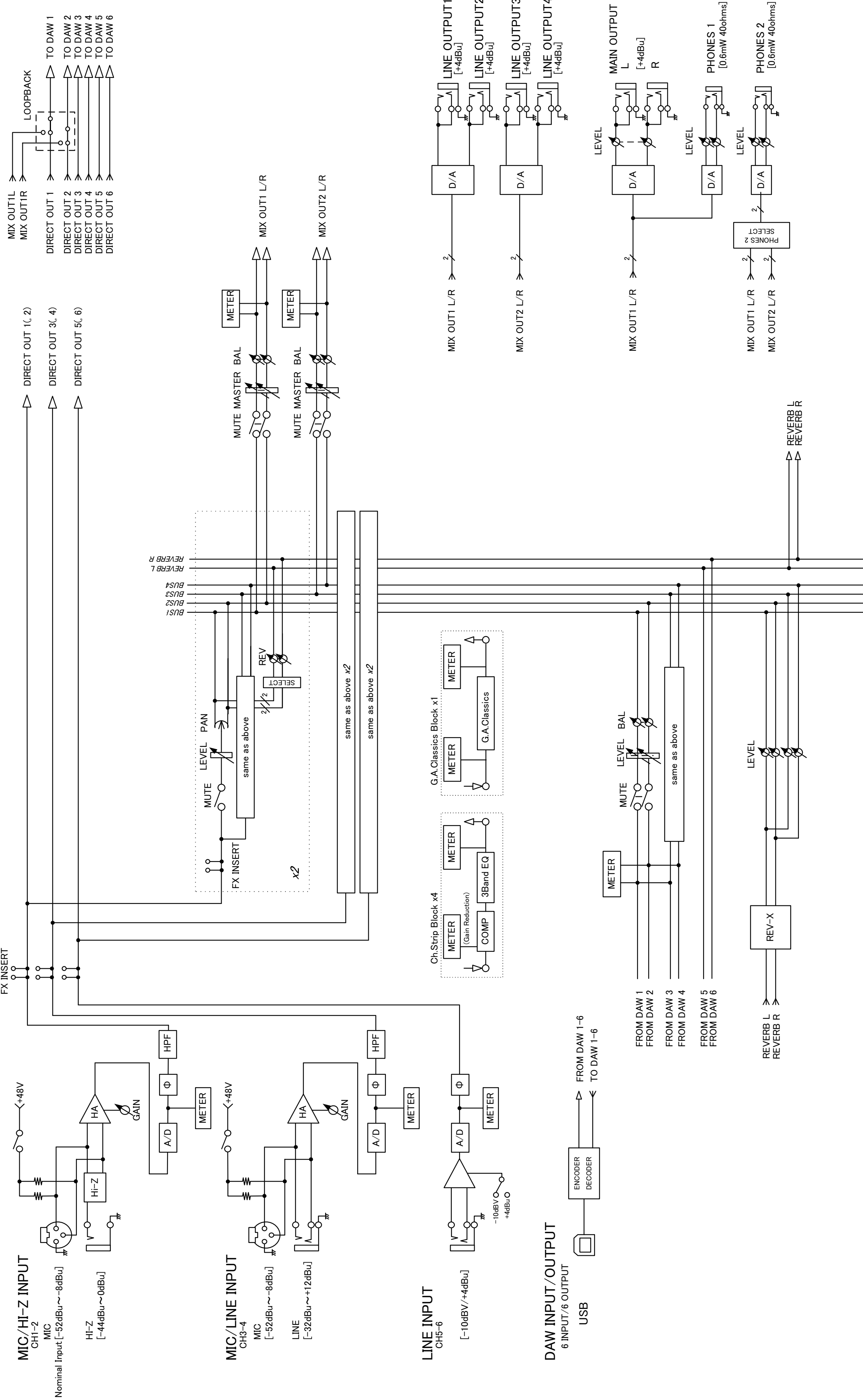
エフェクトの使用制限

同時に使えるChannel Strip数、Guitar Amp Classics数の上限は次のいずれかになります。
たとえば、Channel Stripをモノラルチャンネルに2つ、Guitar Amp Classicsをモノラルチャンネルに1つまで同時に使えます。

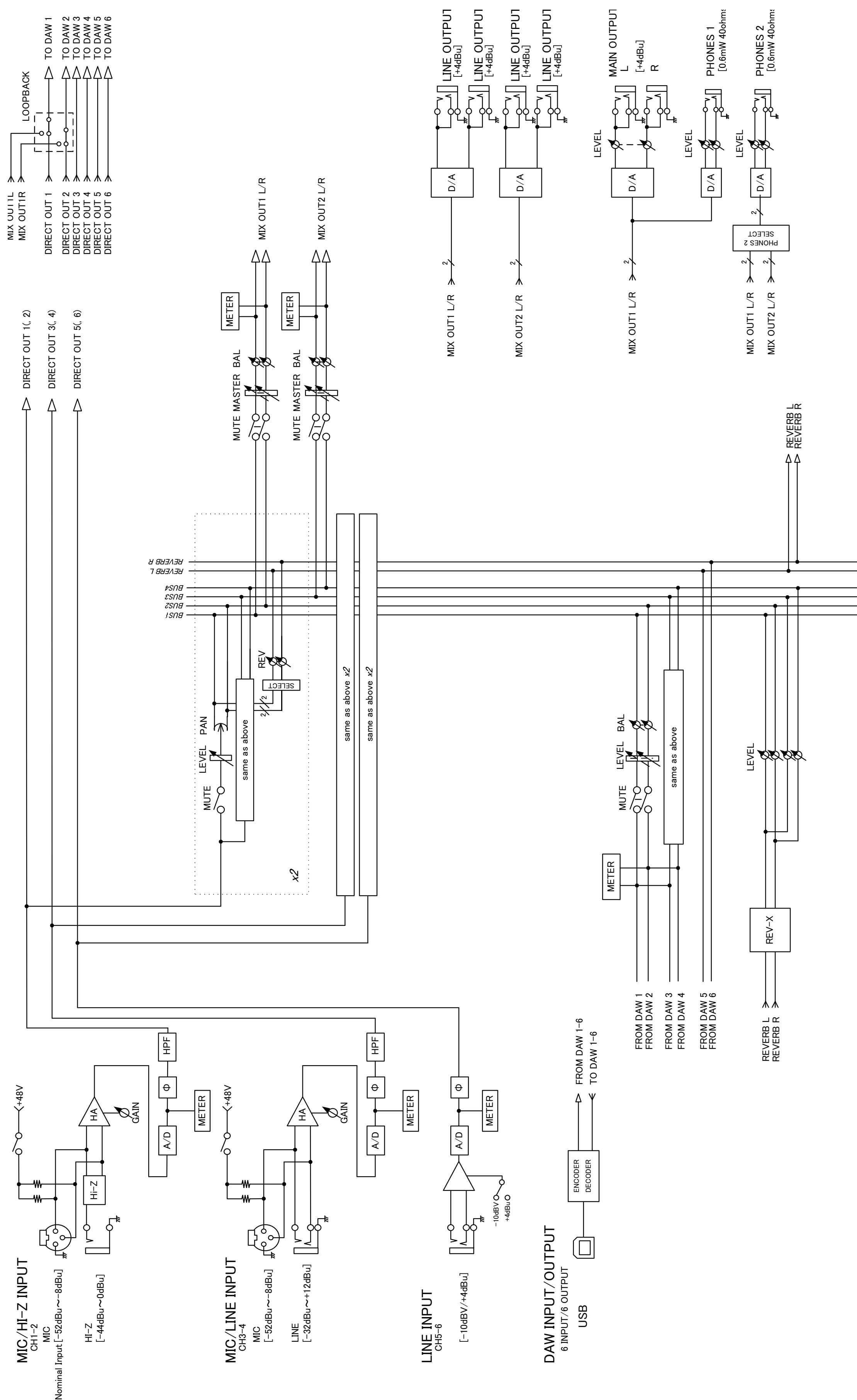
Channel Strip		Guitar Amp Classics	
モノラル	ステレオ	モノラル	ステレオ
4	0	0	-
2	1	0	-
2	0	1	-
0	2	0	-
0	1	1	-

ブロックダイアグラム

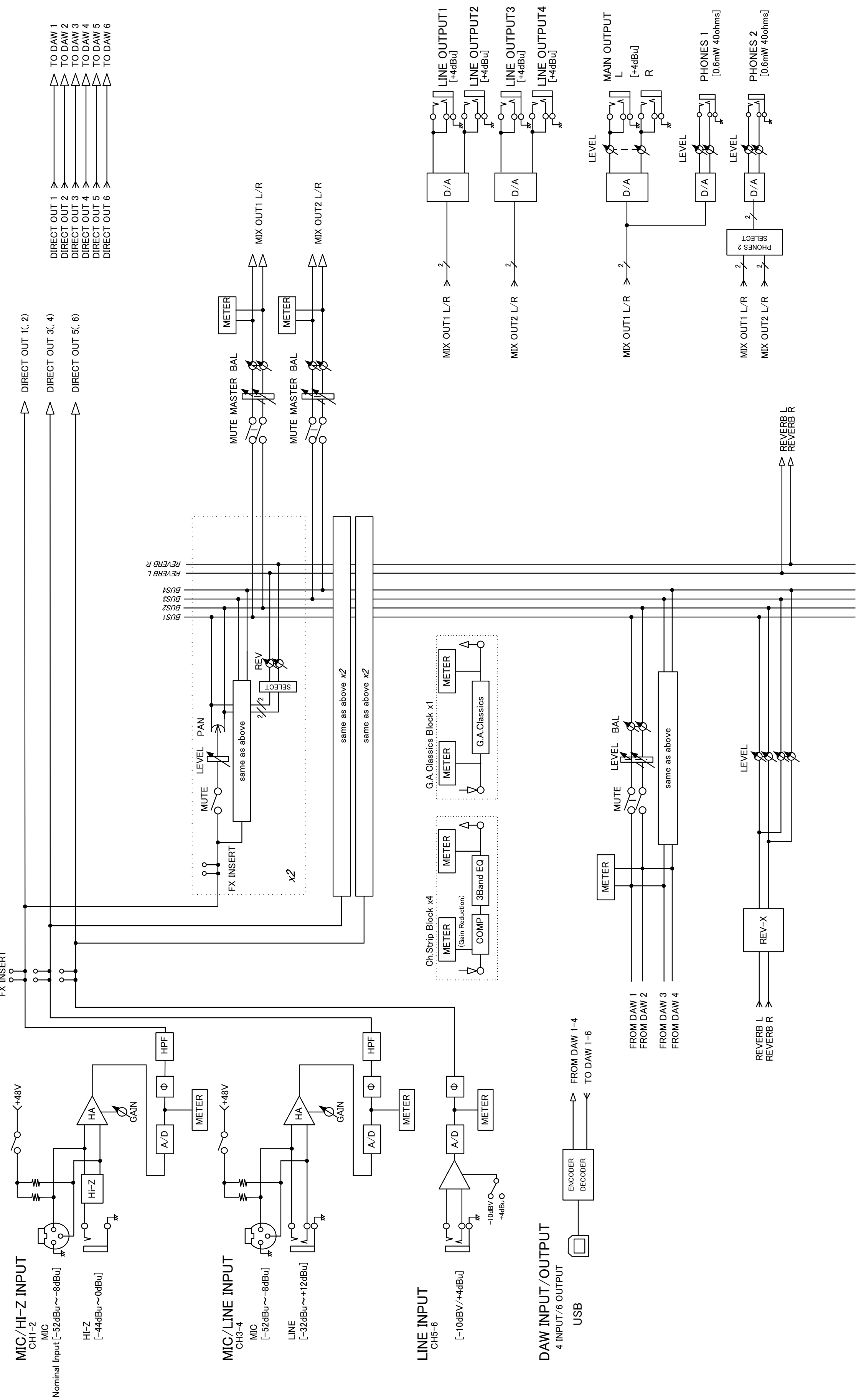
UR44 – 44.1/48/88.2/96 kHz



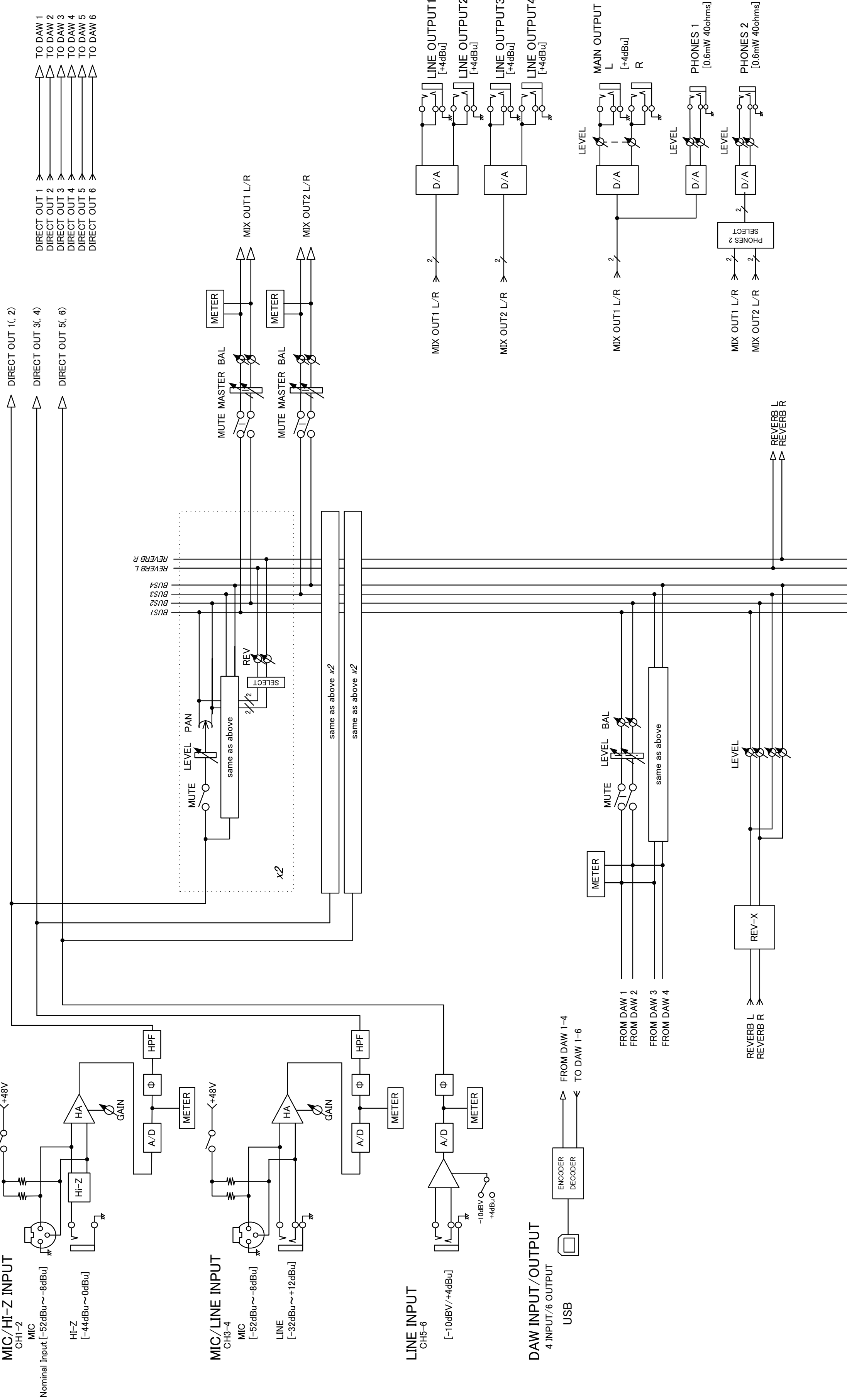
UR44 – 176.4/192 kHz



UR44 – 44.1/48/88.2/96 kHz - iPad



UR44 – 176.4/192 kHz - iPad



Steinberg Web Site
http://www.steinberg.net/

C.S.G., PA Development Division

403MW-C0

